

JIM-NET 便り

2020 年 7 月 22 日



NEWS

- コロナを超えてー Beyond corona ー..... 鎌田 實 (JIM-NET 代表・医師) P.2
- JIM-NET 現地スタッフから皆さまへのメッセージ P.4
- イラク現地を離れて思う事 牧野アンドレ (JIM-NET アルビル駐在員) P.6
- JIM-NETと私と学生と。..... 野田 美波子 (筑波学院大学メディアデザインコース講師) P.7
- JIM-NET 雑感@新型コロナウイルス禍 崔 麻里 (JIM-NET 広報・イベント担当) P.8





コロナを超えて

— Beyond corona —



JIM-NET 代表 鎌田 實

世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るっています。イラクの隣国、イランでは感染爆発が起きていますが、国境を接していながらイラクはイランほど大きな感染爆発になっていませんでした。が、6月以降新規感染者数が1000人を超える日が続き、院内感染の拡大など深刻な事態が続いています。

イラクでは都市封鎖が行われましたが、多くの皆様のご支援で作られた JIM-NET ハウスは、都市封鎖中もその存在価値の大きさが認められ、JIM-NET の現地スタッフたちは患者の子どもたちやその家族を守るために、移動が特別に認められました。

小児がん・白血病の子どもたちのために、イラク北部クルド自治区に、もう一つ小児がん総合支援施設「JIM-NET ハウス 2」の建設を計画しています。しかし、新型コロナウイルスのパンデミックで、予定は半年から1年ほど遅れる可能性も出てきました。

新型コロナウイルスの影響もあって、日本のいくつかの NPO からは「大変厳しい運営状況だ」と聞いておりますが、JIM-NET は多くの皆様のご支援のおかげで、チョコ募金も14万個がバレンタインデーのかなり前に完了することができました。

自粛期間中も、各種の寄付金やグッズ募金も好調でした。心から感謝しております。スタッフ一同、コロナに負けないように働いています。渡航許可が下りたら現地に飛び、現地スタッフと協力して子どもたちや難民の方々の命を守る活動を精力的に行っていきたいと考えています。

コロナと直接闘う On コロナから、With コロナ、そして After コロナを目指した、皆様のお役に立つような情報を書きたいと思います。



シリアや難民キャンプや遠方から治療に来た白血病の子どもたちとの昼食。
(コロナ禍前の JIM-NET ハウス)

小島勢二先生（元名古屋大学医学部小児科学教授）が、新型コロナウイルスについて、テレビで台湾とドイツの論文を紹介していました。小島先生は小児白血病の CAR-T 細胞療法を行っており、イラクの白血病の子どもにこの治療法を使えないかということで、交流が始まりました。一時、外務省に僕自身が相談に伺いました。すぐに実践することはできませんが、新型コロナウイルスが終息してイラクが安定してくれば、こういう最先端の治療法を行えるセンターを作りたいと夢見ています。

小島先生が名古屋小児がん基金を創設したとき、僕がボランティアで記念講演をしに行きました。こんなお付き合いがあったので、新型コロナウイルスについて直接電話でお話を伺いました。台湾の論文では、新型コロナが感染を起こしているのは、発症する前から、そして発症したあと5日目までで、6日目からは感染者を出していないということです。ドイツでは PCR 検査ではなく、ウイルスを分離培養するという、とても難しい研究を行い、8日後にはウイルスが全く検出されていないという論文を発表しています。この2つ



の論文を総合して考えると、発症してから8日間で、ウイルスがいなくなるということです。PCR検査で陰性後に再陽性になる例がありますが、陽性になったとしてももう感染力はないと考えていいと思われます。だとすれば、隔離期間は8日間で良いことになります。PCR検査の余裕がないときには、検査しないで退院したり、ホテルでの自主隔離で8日間を終える事ができます。問題は、一番感染リスクが高い、発症前後2日間、合計4日間です。特に発症前に検査で見つける事はなかなか難しいことです。そうすると、自分が感染していて人にうつすかもしれない可能性を意識しながら、しっかりマスクをすることが重要になってきます。

日本では、インフルエンザが流行る冬期、花粉症が増える春先にマスクをする人が多いので、マスクに対する抵抗感がなかったことが、重症者の数が少なかったことや死亡者数を低くしていた可能性があります。ウイルスは鼻腔より、口腔内の唾液に多いという論文もあり、今多くの人が守っているマスク着用を継続して徹底することが大事になると考えています。そして、外でランチをしたり、夜一杯呑む時など、マスクを外す時には人と距離をとり、食事をする時にはおしゃべりを少し減らすことが大事になります。もちろん換気も必要です。ライブハウスでノリノリになってつい声を上げてしまうなども、クラスターを起こす大きな原因になっていたと思います。剣道や柔道でもクラスターが発生しています。「エイヤー」という気合などが、唾液にたまったウイルスを吐き出して、感染を広げていた可能性があります。

再び、ゴールデンウィーク中に行ったような厳しい自粛要請が行われなくて済むように、注意していくことが大事です。そして、症状が出たら、4日待たずにすぐに発熱外来に行き、陽性なら8日間、ホテルか自宅で自主隔離をすることが必要です。今までは2回PCR検査が陰性になるのを待っていたために、人によっては1か月くらい退院までに時間が必要でした。8日間なら我慢ができるように思います。

コロナ騒ぎの中で、3つの大きな問題が起きてくると思います。

①肥満。ストレスが多い中、つい甘いものを多く食べ

たり、食べ過ぎたりして、メタボの人が多くなる。

②フレイル。運動不足で筋肉の萎縮が起きる。介護保険に現在世話になっている人の36.5%がフレイルと言われています。筋肉を虚弱にしないために、外出の機会が少ない中で自宅でしっかりとスクワットや、かかと落としをやりましょう。

③認知機能の低下。認知症予備軍が460万人いると言われていますが、自粛要請中に本格的に認知症になってしまう人が増えるのではないかと心配しています。認知症とは関係のない中年の方でも、閉じこもり生活が続くと認知機能が低下する人も多いと思います。

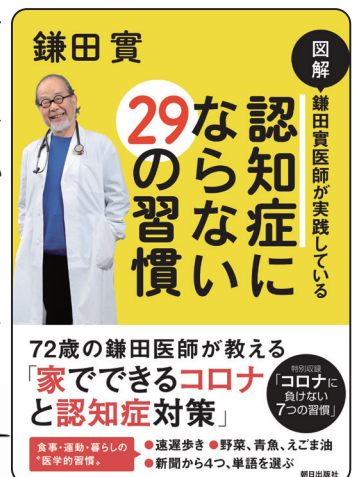
私は5月20日に新しい本を書きました。『図解 鎌田実医師が実践している 認知症にならない29の習慣』（下記参照）。ここ数年心掛けてきた習慣、食生活、運動の方法、考え方などを書きました。

ソーシャルディスタンスが「ニューノーマル」と言われています。でも離れているだけでは、生き甲斐を見失ったり、孤立化したり、うつ病を発したり、不眠症が多くなっていくのではと心配しています。認知症の予防のためにも、人との付き合いは重要と言われています。新型コロナウイルスを広げないためには離れることが必要ですが、いろいろな工夫の中で「離れてつながる」ことが大事なのです。SNSを上手に使うこともひとつの方法です。手紙や電話で情報交換したり、友だちの心を支えてあげたりすることも、とても大事です。

JIM-NETもサポーターの皆さんとのつながりを、今まで以上に大切にしていこうと思っています。JIM-NETは「離れてつながる」ことを保ちながら、コロナ前よりもより平和で人々が尊重しあい、助けあう、そういう社会にするように、「Beyond coronaーコロナを超えて」という意識を強く持ちながら、On コロナから With コロナへ、そして After コロナへ、高い志を持って進めていこうと思います。

これからも、応援よろしくをお願いいたします。

朝日出版社 ¥1,280（税込）
書店で発売中！





JIM-NET 現地スタッフから 皆さまへメッセージ



★バルザン

皆さん、こんにちは。私はバルザン・アザディン・サーラハ、25歳です。妻と二人、アルビルに暮らしています。

大学で社会学を専攻した後、2017年よりJIM-NETで働いています。私の主な仕事内容はソーシャルワーカーとして、ナナカリ病院の小児科に通う子どもたちの心理社会的支援をすることです。他にもナナカリ病院との連携、JIM-NETハウスの宿泊施設の管理、公立学校での「がん啓発活動」なども担当しています。現在は、JIM-NETハウス内で行われる院内学級のために、先生たちと協力して教育プログラムを考えている最中です。

JIM-NETの事業は、がんを患っている子どもたちを対象としているため、気を付けなければならないこと

がたくさんあります。例えば院内学級の運営では、子どもたちがどうやって安全にJIM-NETハウスまで通えるかを考えたり、がん患者の子どもの心理社会的支援に際して、個別のニーズに沿った内容を考えなければなりません。他のスタッフとも連携して、これらの課題に向き合っています。



いつもJIM-NETをご支援いただき、ありがとうございます。皆様の支援があるからこそ、私たちは事業を続けることができています。心より感謝申し上げます。大変な時期ではありますが、皆様の健康と幸せをお祈りしています。

★ヒワ

皆さん、こんにちは。JIM-NETスタッフのヒワです。私は29歳で、アルビルにある医科大学を卒業し、総合診療医としての仕事の傍ら、JIM-NETに勤務しています。現在は生まれたばかりの息子と、看護師を勤める妻の3人で暮らしています。

私は2016年にJIM-NETと出会い、団体の活動に憧れ、そこからパートタイムのスタッフとして働かせてもらっています。私は主にナナカリ病院に対する医薬品支援と、貧困患者支援について医学的な見地から関わっています。患者に対して処方された薬の説明をしたり、また、他の医療支援に関わるNGOとの連携、ナナカリ病院に勤める看護師に対する研修も行っています。



JIM-NETの仕事では、辛かったこともあります。予算に限界があるために、貧しい家庭に対して支援ができなかったこと、また、せっかくご寄付頂いた医薬品に手続き的な問題があり、病院に届けられなかったことなどがありました。



残念ながらここ数十年、イラクの医療事情は年々悪くなっています。給料が支払われないことから、優秀な医師も海外に出てしまいます。これに新型コロナウイルスの蔓延が重なり、JIM-NETの活動も含め多くの事業が止まっています。大変な時ですが、踏ん張り時だと思い、日々活動を頑張っています。



أنا مرزا بامل
العراقية



★ラウンド

皆さん、こんにちは。私はラウンドです。31歳で、妻と2人の娘、1人の息子とアルビルで暮らしています。また、今年はまだ1人の子どもが生まれる予定です。

JIM-NETには、最初は運転手として契約をしていましたが、2017年からスタッフとして採用され、現在は会計業務や省庁との手続き、活動に関する諸手続き業務を中心に行っています。またイラク国内の他のJIM-NET事務所との調整も担当しています。

3月に始まった新型コロナウイルスの蔓延と、それに伴うクルド自治政府からの外出禁止措置を受けて、

JIM-NETの事業も一時中断を余儀なくされ、貧困患者の支援や小児がん患者の心理社会的支援が滞っていました。

しかし、その中でも私たちは保健局に対する医療物資の支援など、「できること」を行っていました。



JIM-NETでの仕事に、とてもやりがいを感じています。体力の続く限り、働きたいと考えていますし、支援の必要のある人たちを助け続けたいです。最後に、いつもイラクの人々をご支援くださっている日本の皆様に感謝申し上げます。

★リーム

こんにちは。私はリーム・アッバース、27歳です。夫と娘のサーベーンと3人でアルビルに暮らしています。私はもともとシリアからの難民で、2013年にイラクのクルド自治区へと避難しました。

ダラシャクラン難民キャンプで兄弟たちと暮らしていた2014年始め、JIM-NETがキャンプで行っていた妊産婦支援プロジェクトのために採用され、2年後にアルビル市内へと引っ越し、フルタイムのスタッフとなりました。

私のJIM-NETでの主な仕事は、ソーシャルワーカーとして小児がん患者やその家族のサポート、また貧困患者に対する薬代の支援などです。特に患者の家族は、自分の子どもが小児がんになってしまった悲しみ、今後の治療の不安などを聞いてくれる場所を必要として

おり、私たちはそういった場を提供しています。

難民支援も私が担当している業務の一つです。JIM-NETは、難民キャンプに暮らす妊産婦のために装飾品作成や編み物のワークショップを開催し、母乳を飲めない乳幼児のための粉ミルク支援を行っています。また、私自身がシリアに渡航し、シリア国内の避難民に対する医療物資の支援も継続して行っています。



いつもJIM-NETをご支援いただき、ありがとうございます。皆様のご支援があり、私たちも人々の心に幸せを届けることができます。これらの支援を通して、確かな「違い」を生むことができます。



イラク現地を離れて思う事

牧野アンドレ（JIM-NET アルビル駐在員）

いつも JIM-NET をご支援いただいている皆さま。

こんにちは、JIM-NET アルビル駐在員の牧野です。

今年の1月、米国によるイランのソレイマニ司令官暗殺に端を発した両国の対立の影響で、外務省から退避勧告が出され、帰国を余儀なくされてから、早くも4ヵ月が経ちました。その間、イラクは新型コロナウイルスの影響で3月より1ヵ月半に渡る外出禁止令が敷かれ、JIM-NET ハウス内での院内学級や、シリア難民キャンプにおける妊産婦支援といった活動もしばらく制限されていました。がんの子どもたちやスタッフの安全も考慮し、JIM-NET 現地スタッフのテレワーク、また分散出勤なども導入しました。

5月に入り、政府による制限も徐々に解除され、院内学級も再開。シリア難民キャンプにおける支援も再開しています。感染症対策により注意を払いつつ、JIM-NET ハウスにも子どもたちの笑い声が戻り、日常が戻り始めています。



院内学級も再開しました

新型コロナウイルス蔓延の時期にあっても中断せずに継続していた事業の一つが、JIM-NET ハウスの宿泊施設事業でした。厳格な外出禁止が敷かれ清掃の作業員が入れない状況下でも、宿泊している患者家族の皆さんが協力して清掃を行っ



1ヵ月半ぶりのダラシャクラン難民キャンプの妊産婦支援

てくれました。アルビル県保健局から許可をもらい、スタッフの移動が可能になった後は、遠方から来て戻れなくなってしまった患者家族のケアや、新たに治療に来る患者やその家族のケアにスタッフも奔走してくれました。

現在、私自身は日本から遠隔で現地のスタッフに対して指示を出し、プロジェクトを回しています。

イラクからの退避勧告が解除された数日後に、今度は新型コロナウイルスの影響で日本からの渡航者の入国を禁止され、今日まで解除されていません。

「なんとついていないんだ」と思ったこともありましたが、現在は「事業を見直す良い機会」と捉え、スタッフと連携しながら事業をさらに意味あるものにしようと、パソコンのキーボードをたたいています。

「現地にいるからこそ意味がある」。駐在員という仕事をいただきながら、イラクの実情を支援者の皆さんにお伝えできず、4ヵ月以上も戻れていない現実にも焦ることもあります。

ただ、この事態を自分の成長、さらに現地の事業の発展を行う上で落ち着いて考える良い機会と考え、現地のスタッフとともに日々の仕事に向き合っています。

現在（5月中旬）、イラクはイスラム教のラマダン（断食月）の真っ最中です。この「聖なる月」に、日本の皆さま、そしてイラクの人々の健康と幸せを心より願っております。





JIM-NETと私と学生と。

野田 美波子（筑波学院大学メディアデザインコース講師）

私、野田は、アニメーションや映像、デザインの力を使って筑波学院大学メディアデザインコースの学生と共に JIM-NET に参加しています。今回、野田と JIM-NET との関わりや、制作物のメイキングを少しお伝えできればと思います。

JIM-NET と野田との出会いは、2016 年。野田は筑波学院大学（以下、学院大）に映像、アニメーションを教える教員として採用されたばかりで、何か学生が盛り上がることをしたいと考えていました。そこで、学院大で地域貢献などを教える武田先生から紹介していただいた JIM-NET とともに UNHCR 難民映画祭学生パートナーズに参加し、学院大でイベントを開くことになりました。

バフマン・ゴバディー監督の「難民キャンプのこどもたち」を上映するだけでも十分に素晴らしいのですが、せっくなので、専門分野であるメディアデザインの力を使いたい！という事になりました。そこで社会貢献に関心があり積極的に参加できる学生を集め、共にアラブの文化や宗教を学び、アイデアを練り、パフォーマンスは、プロジェクションマッピング+ダンスに決定しました。そして、JIM-NET 現地スタッフに使わなくなった難民キャンプのテントを届けてもらい、そのテントで裾の長いドレスをつくり、スーフィーダンスに挑戦しました。映画上映、JIM-NET と学生のトークセッション、そしてパフォーマンス！広場の暗闇に浮かび上がるスーフィーダンスとプロジェクションマッピングはとても幻想的で美しく、学生、JIM-NET、教員と共に約 5 ヶ月かけて挑んだイベントは、大成功に終わりました。

ここから始まった JIM-NET とのお付き合いは、今でも続いています。2017 年には、JIM-NET チョコ募



金キックオフイベントのために「チョコレートのうた」とアニメーションを学生と共に制作しました。まず JIM-NET の方々にチョコレート募金に関するキーワードを羅列してもらい、それを歌詞にし、曲にのせて、学生や子ども、教員、JIM-NET の方々総動員で合唱しました。その曲にイラクやシリアの子どもたちが描いた絵 PC 上で動かして、アニメーションを編集しました。一週間学生たちと PC に向かい作業を続け、完成したのはイベント当日の明け方でした。大勢のお客さまの前で「チョコレートのうた」を披露し、「間に合った！喜んでもらえた！」という気持ちで、学生も野田も涙ぐんでいたのを思い出します。

2019 年には、ポストカードやマスキングテープなどのデザインや、キックオフイベントの裏方を任せて頂けるようになりました。今のところ、私の急な無茶振りにも学生は楽しそうについてきてくれています。

このようなかたちで、毎年活動に参加させて頂いています。自分の得意な事で世の中を良くするお手伝いをしたい！そんな気持ちで私と学生はこれからも JIM-NET に関わっていけたら良いな、と考えています。



JIM-NET 雑感@新型コロナウイルス禍

崔 麻里 (JIM-NET 広報・イベント担当)

緊急事態宣言が解除されて 10 日ほどが過ぎ、ようやく以前に「近い」日常が戻り始めています。

2 月に入ってから新型コロナウイルス感染に関する報道が続き、落ち着かない日々でしたが、唯一、チョコ募金が無事に終了できた直後のことが救いでした。

3 月は「ウイルスをうつさない・うつらない」ことを最優先として時差出勤、4 月 7 日に発令された「緊急事態宣言」前後からは、リモートワークへと勤務体制も変化しました。日々の挨拶・打ち合わせをオンラインで図り、試行錯誤をしながら理事会の Zoom 開催など、いつの間にか新しい試みも定着しました。

必要に応じて事務所に向かうと、電車内も街中もほとんど人の姿が見られず、まるでゴーストタウン。そうしているうちにチョコ募金の準備も進み始め、「新型コロナウイルスが募金活動に与える影響はどれだけあるんだろう…」と、初めての事態に不安で弱気な空気が漂いました。

一方、イラクでは、早期に厳しい外出制限を行いました。感染者数は 12,366 名、死亡者数は 346 名 (2020 年 6 月 8 日現在) となっており、「不安定な状況はイラクも同じ。こんな時だからこそ、現地の子どもたちと家族が安心して治療に専念できるよう努力しなくては…」と、広報の方向性を探っていました。

そんな矢先、スタッフからの嬉しい報せに事務局内が沸き立ちました。JIM-NET グッズの注文が相変わらず続いていること、そして、4 月に頂戴した募金や新規サポーター申込者数が大幅にアップしていたのです！新型コロナウイルスの広がりで見えない中、これまでの「普通」が普通でなくなり、心もとなく感じているのは皆さん同じのはずです。そんな状況にもかかわらず、こうして JIM-NET の活動に心を寄せてくださる方々の存在を身近に感じ、大きな勇気を頂きました。

LUNA SEA / X JAPAN の SUGIZO さんのステージ衣装をチョコ缶のカラーで制作されたファッションデザイナー・鶴田能史さんからも心強い応援が続いています。tenbo x JIM-NET コラボレーション第 2 弾は、ハウラが描いた猫とアイスクリームがアレンジされた T シャツです。

tenbo × JIM-NET
コラボレーション第 2 弾

CAT BLESS YOU

- 猫のご加護がありますように -



世の中の悩み、苦しみ、悲しさを
全て受け止め浄化する事のできる
HAPPY な妄想ニャンコが
幸せの息吹をみなさまへお届けします

♥ tenbo オンラインショップで
お求め頂けます。
(同封のちらしをご参照ください)
♥ 売り上げの一部は JIM-NET への
募金となります。

小児白血病を克服したイラクの女性ハウラが描いたアートと tenbo のコラボレーション

6 月上旬に西武池袋本店内でオープンしたポップアップショップでは、鶴田さんのお申し出により、ハウラの絵がプリントされた特製マスクと JIM-NET ポストカードのセットをお客様にプレゼント。コロナ禍で「マスク」に注目が集まる中の素敵な取り組みでした。

非常事態宣言下、鶴田さんはいち早くマスク不足に悩む医療機関、福祉施設、介護事業所へ合計 2,500 枚のマスクを作成・寄付されました。Facebook で縫い子さんのボランティアを募って取り組まれた実にタイムリーなプロジェクトです。オリジナルの布地でのマスク作りには、JIM-NET もほんの少しだけお手伝いさせて頂き、「必要な時に人の役に立つ」ことを改めて考えさせられました。

こうして振り返ると、「STAY HOME」の 2 カ月間は、私に様々なことを気づかせてくれました。気負わずに身近な人々を励ましたいし、できることで応援をしたい。常に相手の顔を思い浮かべながら小さな幸せの連鎖が続くことを願いたい。ほんの一瞬、「いま、自分にできること」に意識を向け、イラクとシリアの子どもたち、そして JIM-NET を支えてくださる方々の思いを繋げられるよう、新しいことへも尻込みせずにチャレンジしたい。これからは、そんなことを心がけていきたいと思います。

